

健康文化

臨床教授制度について

前越 久

平成10年6月5日であった。第43回全国診療放射線技師教育施設協議会が徳島大学医療技術短期大学部で開催された時、私は名古屋大学医療技術短期大学部の代表としてこの会議に出席していた。その時、同会議に出席されていた文部省高等教育医学教育課の看護教育係長兼医療教育係長から、この臨床教授という称号のことを初めて伺った。

この全国診療放射線技師教育施設協議会という組織は、全国の診療放射線技師養成の大学、短大及び専修学校で教育に当たっている先生達が1年に1回、当番校を定めて集まり、教育改善に関して討議し合う場となっている。この席には、文部省と厚生省（ここでは、旧省庁名で記す。）から1名ずつ係官の出席を願っている。それは、大学と短大は文部省管轄の教育機関であり、専修学校は厚生省管轄であるからである。また、診療放射線技師の免許は厚生大臣の免許証であり、厚生大臣が行う国家試験に合格しなければならないこと。その診療放射線技師の国家試験の受験資格を得るためには、大学の教育機関であろうと専修学校の教育機関であろうと、診療放射線技師養成所指定規則に定められた教科目とそれに対応する修得時間数をクリアしていなければならないこと。そして、この指定規則も文部・厚生両省にまたがって定められている関係上、この協議会では両省のどちらが抜けても議論が成り立たないためである。

話を臨床教授制度に戻そう。この制度のことが議論されはじめたルーツをたどってみると、平成8年6月に、これは文部省の大学審議会の検討会議として『21世紀医学医療懇談会』が設置され、『21世紀の命と健康を守る医療人の育成を目指して』と題する第1次報告が答申されたとき、その幾つかの項目の中の一つにこの制度のことが取り上げられている。すなわち、(1) 医学部入試に面接試験の導入、(2) 医学部への編入学の実施、(3) チュートリアル教育などの少人数教育の導入、(4) 臨床教授制度の導入、等である。

また、これらの項目の内、臨床教授制度を取り上げた狙いは何か、を答申の中から拾ってみると、次のような内容になる。(1) 人間性豊かな医療人を育成するために臨床教育の充実を図る。(2) 21世紀において国民から信頼される

医療人を育成することは大学人の責務であり、臨床実習を充実させるために大学以外の多彩な医療人や医療機関等との連携を図る、(3)大学の教員とともに医療の現状に練達した優れた医療人で、医療現場での豊かな経験を踏まえた医療人が、これからの医療を担う医療人育成に参加・協力できるよう、新たに『臨床教授』の制度を設けることを提案する、と述べている。ここで私の勝手な解釈で重要と思われるところを指摘するとすれば、“医療現場での豊かな経験を踏まえた医療人が”これからの医療を担う医療人育成に参加・協力できる教育体制を整える、というところではないかと思う。医学部保健学科という教育・研究機関では、医療技術部門に関する学問体系の確立を目指すことはいうまでもないが、その道10年、20年、30年の“臨床経験”を有する優れた医療技術者が、高度医療技術を背景とした人間性豊かな医療人として、臨床教育に携わることが如何に大切か、その重要性がこの答申で見直されたのであろう。

さらに、第3次報告として『21世紀に向けた大学病院の在り方』として次のような項目を上げている。大学病院は(1)医療を提供する場であり、(2)医療、医学を研究する場であり、(3)医療技術者の教育・研修を行う場として、大学病院を教育病院という形で位置付けると述べている。ここで(3)の項目を読んで初めて気付いたことであるが、大学病院という所は従来は、医師、歯科医師だけの卒前教育の場、あるいは臨床教育の場として位置付けられていたのであろうかと考えさせられてしまったことである。しかし今回初めて、大学病院はコ・メディカルスタッフの教育実習・研修の充実を図るための施設という位置付けが為されたと書かれていたので、認識を新たにしたところである。いずれにしても、臨床教授制度のおかげで医療技術者の臨床の場での教育に対しても、太陽の日が注がれるようになってきたものとプラス指向で歓迎している。

現在、この臨床教授の制度を保健学科放射線技術科学専攻に取り入れている大学は新潟大学、大阪大学及び名古屋大学の3大学の医学部にすぎない。平成9年10月1日付けで、文部省高等教育局医学教育課長名で全国の国立大学医学部長宛に『臨床教授称号付与について』という通知が出されている。これには、臨床教授等の選考に関する規程を定め、検討を進めるよう指示している。私は、国公立のどの医療技術者養成教育機関においても『臨床教授制度』を積極的に導入して臨床教育の充実を図り、高度医療技術を広く国民に還元するような対策を講じて頂きたいと願っている。(平成13年4月29日記)

(名古屋大学名誉教授)